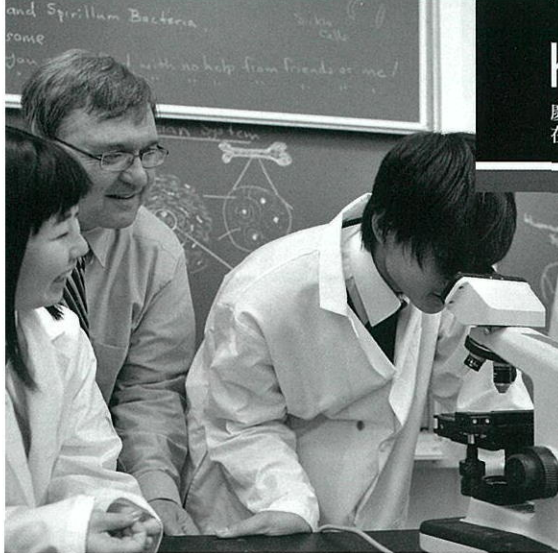


Keio Academy of New York

慶應義塾唯一の 慶應義塾ニューヨーク学院
在外一貫教育校



欧米型ボーディングスクール と慶應義塾の教育理念の 融合

世界のボーダレス化が進む中、各校ではグローバルに対応した取り組みが活発化している。創始以来、日本の近代教育を先導してきた慶應義塾では、こうした時代に先駆けた1990年に在外一環教育校・ニューヨーク学院を開校。有為な人材を多く輩出してきた。

アメリカ合衆国ニューヨーク州バーチエスの美しい自然の中にあるニューヨーク学院は、9年生(中3)から12年生(高3)が学ぶ男女共学の4年制高等学校だ。開校以来、世界約30カ国から生徒が集まっており、多様な文化体験を持ちつつ独自性を尊重しながら学んでいる。

開校30年を前にニューヨーク学院は、本年度からタウンゼント博士を新学院院长に迎え、新たなスタートを切った。タウンゼント新学院院长の長年に渡る英国教育現場での実績を基に、慶應義塾一貫教育校の理念と欧米型ボーディングスクールの長所を併せ持つユニークな学校として更なる

革新を遂げようとしている。

学ぶ楽しさ、そして学びそのものに価値を置き、大学はもとより将来世界で活躍できる人材の育成を実践する。教室で学ぶ高いアカデミック・スタンダードに加え、スポーツ・音楽・演劇・ディベート、文化系クラブなど、個々の才能を発見し、それを伸ばす機会にも恵まれている。

また、ニューヨークという学習・生活環境を最大限に生かし、博物館・美術館や劇場を訪れたり、同校ならではのプログラムも多彩だ。

このほか、早朝や放課後、週末の補習、上級生が下級生を指導するピアチューター制度など、様々な学習支援制度がある。生徒同士が互いに教え、学び合う慶應義塾の伝統「半学半教」の精神は、ニューヨーク学院にも息づいている。

寮生活で、 自立性と人間力を養う

在校生の約9割は寮で生活している。ハウス制度を採り入れ、生徒は縦割りの6つのグルーブに分かれ、それぞれがコミュニティーの一員と

して貢献することが求められる。ヘッドオブハウス始めアドバイザーが全面的に生徒の生活をサポートする。各居室は2名の共有で、家具をはじめ、電話やWifiなど、生活に必要な設備を整備。規則正しい生活を送れるように学習・生活面をサポートしながら、生徒個々の自立性を養っていく。寮生は3食、通学生は昼食をカフェテリアでとることにする。文化的な行事にちなんだ食事や和食もあり、バランスのよい食生活が配慮されている。

卒業生は原則として、学院院长の推薦により慶應義塾大学の10学部に進学できる。また、慶應義塾大学以外の日本の大学への進学も可能だ。受験に縛られることなく、学習や好きなことに打ち込める自由な校風は、慶應義塾の一環教育校ならではの。それに加え、ニューヨーク学院には異文化に触れ、その違いを理解しながら柔軟な思考力を養える絶好の環境が整っていると、いえる。

■東京大阪にて学院説明会を開催いたしますので、是非ご参加ください。

東京会場…12月21日(土)
大阪会場…12月22日(日)